

## ユーザーの削除の設定

ユーザーの削除を設定するには、次の役職のいずれかが必要です。

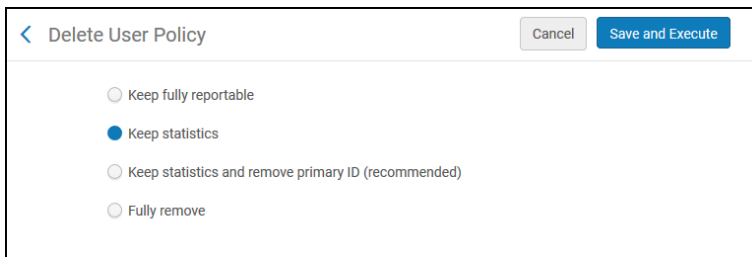
- ユーザー管理者
- 総合システム管理者

ユーザー消去ジョブ(「[ユーザーの消去](#)」参照)やAPIを使用してユーザーを削除する際、ユーザー情報の処理方法を設定できます。ポリシーをより制限的に変更する(より多くのデータを削除する)と、Almaは以前にパーシされたすべてのユーザーにも新しいポリシーを適用します。

### Note

- この設定は、手動でユーザーを削除する際の処理には影響を与えません(「[ユーザーの削除](#)」参照)。
- ユーザーのパーシジョブでは、保留シェルフにあるリソース共有リクエストを持つユーザーは削除されません。
- ユーザー削除ポリシーは、ユーザー削除APIにも適用されます。詳細については、開発者ネットワークでの[ユーザー削除API](#)を参照してください。

[ユーザー削除ポリシー]ページで、ユーザー削除について設定します([設定メニュー]>[ユーザー管理]>[一般]>[ユーザー削除ポリシー])。



[ユーザー削除ポリシー]ページ

ユーザーの削除について設定するには：

1. [ユーザー削除ポリシー]ページで、ユーザー削除ポリシーの設定を選択します。
  - 完全にレポート可能なままにする – ユーザーのステータスを[削除済み]にします。すべてのリクエストはキャンセルされ、ユーザー識別子は無効になります。ユーザーの残りのデータはシステムに保持されます。
  - 統計情報を保持 – ユーザーの統計データが保持されます。つまり、個人を特定できないすべての統計データ(ユーザーグループやジョブカテゴリなど)と、[統計]タブ上にあるデータが保持されます。プライマリ識別子は姓になります。他のすべてのデータは削除されます。ユーザーデータはすでに匿名化されている場合があります。「[匿名化の設定](#)」を参照してください。
  - 統計情報を保持してプライマリ識別子を削除(推奨) – ユーザーの統計データが保持されます。つまり、個人を特

定できないすべての統計データ(ユーザーグループやジョブカテゴリなど)と、[統計]タブ上にあるデータが保持されます。プライマリ識別子が削除され、機関内で重複しないAlma IDは姓になります。他のすべてのデータは削除されます。ユーザーデータはすでに匿名化されている場合があります。「[匿名化の設定](#)」を参照してください。完全にレポート可能なままにするまたは統計情報を保持するを選んでいて、このオプションを選択した場合、以前に選ばれたオプションを使って消去されていたユーザーレコードもアップデートされるという確認メッセージが表示され、新しい選択の確認が求められます。確認すると、新しいジョブが以前に消去されたユーザーレコードをアップデートします。

- 。完全に削除 – 統計データを含むすべてのユーザーデータが削除されます。

2. [保存して実行]を選択します。選択したユーザー削除ポリシーが保存され、すでに削除されているすべてのユーザーに対して適用されます。